

科 目 名	空間計画論	単 位 数	2	授 業 形 態	講義
対象履修プログラム	環境土木工学, 建築学	担当教員	加藤 博和		
キーワード	都市計画, 都市発展段階, 土地システム, 持続可能な都市経営				
授業の目的	経済メカニズムや土地制度などを背景とし、国土・都市の発展段階を意識した空間計画の理論について理解する。日本および海外における実際の空間計画制度について学習し、それらを相互比較することによって、21 世紀の日本および世界に求められる空間計画のあり方について探求する。				
授業の目標	1. 空間計画を考える上で必要となる経済学、土地制度、ストック、公共投資に関する基礎知識とその計画への展開に関する知識を習得し、説明できる。 2. 日本の空間計画の概略とその問題点を理解し、説明できる。 3. 今後の日本にとって必要な空間計画のあり方について理解し、説明できる。				
基礎となる科目	社会資本計画学, 人間活動と環境				
関連して履修が望ましい科目	交通論, 都市・国土計画 (本科目修得後に履修することが望ましい) 社会資本・空間計画学演習 (計画系研究室志望者は履修を強く勧める)				
授 業 内 容 (日程は予定、変更可能性がある ので注意。変更 の場合は授業や NUCT で連絡する)	第 1 週 (10/6) オリエンテーション				
	第 2 週 (10/13) なぜ空間計画が必要か？				
	第 3 週 (10/20) 国・都市の成長・衰退・再生メカニズムと空間計画				
	第 4 週 (10/27) 空間計画を理解するために必要な経済学				
	第 5 週 (11/7) ストックの経済学 <授業予備日>				
	第 6 週 (11/17) 公共財と公共投資の社会経済的意義				
	第 7 週 (11/24) 土地税制・土地情報・土地市場制度と空間計画との関係				
	第 8 週 (12/1) 空間計画が環境問題に及ぼす影響				
	第 9 週 (12/8) 日本における空間計画制度の全体構成とプロセス				
	第 10 週 (12/15) 日本における都市計画の問題点と改善策				
	第 11 週 (12/22) 国土・都市計画技術者に求められる倫理				
	第 12 週 (1/6) 持続可能な都市経営のための空間計画 <水曜、授業日>				
	第 13 週 (1/12) 少子高齢化・人口減少下に必要な空間計画				
	第 14 週 (1/19) 情報社会・コロナ後の空間計画のあり方				
	試験 (未定)				
教科書・参考書	教科書は指定しないが、資料を適宜配布する 参考書: 林良嗣、森田紘圭、竹下博之、加知範康、加藤博和編: 交通・都市計画の QOL 主流化 経済成長から個人の幸福へ、明石書店、2021.8				
授業の形式	・ES033 で対面講義を行いつつ、その様子を YouTube で事後視聴できるようにする予定 ・主に板書による説明を行い、資料配布やパワーポイント投影も行う場合がある ・「学生から教員への質問の機会」と「学生の意見交換の機会」は TACT の「メッセージ」「チャットルーム」で可能とする				
評価方法	・期末試験 70%, レポート 30%とする。60%以上の成績を合格とする。 ・空間計画を考える上で必要となる経済学、土地制度、ストック、公共投資に関する基礎知識とその計画への展開に関する知識を有していることが合格の条件であり、より深い理解がなされていればそれに応じて成績に反映させる				
履修上の注意	・専用のノート (A4) を用意し、講義においては板書のみならず話した内容のうち重要と思われる点をノートに書き留めること ・毎回、終了時には簡単なコメントを提出してもらう。さらに数回のレポート課題を課すので、必ず提出すること。提出はすべて TACT を使用する ・上記の予定は変更可能性あり。変更の場合は TACT で連絡する				
質問への対応方法	・内容に関して質問がある場合には、なるべく授業中に質問して解決すること ・授業時間外では特に定まったオフィスアワーは設けないが、TACT のメッセージ機能にて質問およびアポイントメントを受け付ける 内線: 5104、E-mail: kato@genv.nagoya-u.ac.jp TA: 地域戦略研究室 M1 殿垣内 (とのかきうち)				
メッセージ	日本の空間計画制度は多くの課題を抱えており、人口減少・超高齢社会への対応や、巨大災害や地球環境問題への配慮が不十分で、風格ある国土・都市形成が阻害されている。それに対する問題意識と自分なりの改善策を持つことが、将来土木・建築分野に従事する技術者にとって必須である。その使命を胸に講義を担当するので、ぜひしっかりと聴いていただきたい。				